

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービスほーぷる佐倉教室		
○保護者評価実施期間	2026年3月9日 ～		2026年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	2026年3月9日 ～		2026年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	昨年度は、学校と連携を固めながら、より適切な支援方法について協議・検討を行った。 保護者に対しても、学校での様子や課題点を共有することで、一定の安心につながっていたと考えられる。 今後も、集団生活における困難の軽減を目的として、学校との情報共有および連絡体制を継続していく。	学習の進捗状況、対人関係における課題、集団生活の中での 困り感等について、学校および保護者と継続的に連絡・情報共有を行っている。 共有された内容を基に、支援の方向性や具体的な関わり方を随時見直し、利用者が学校生活をより安定して過ごせるよう支援体制の調整を図っている。 また、学校・家庭それぞれの視点から得られた情報を総合的に捉え、課題の背景や必要な支援を多面的に検討することで、より適切な支援内容の構築に努めている。	学校側の業務負担等により、連絡のための時間確保が困難となる場合があることを踏まえ、電話連絡に加えて、他の連絡手段を併用できる体制の構築を検討している。 複数の連絡手段を確保することで、情報共有の確実性を高め、支援内容の検討および見直しを円滑に進められるよう努めていく。
2	利用者の指先の巧緻性を高めるため、発達段階に応じた制作活動を取り入れるとともに、アナログゲーム等を活用し、学校生活におけるルールのある遊びにも参加しやすくなるよう支援を行っている。 また、集団生活の中で困難が生じないよう、活動内容や関わり方を工夫し、個々の特性に応じた支援方法の検討・調整を継続している。	子どもの発達状況や個別の課題に応じて、集団活動における目標を個別化し、達成可能な段階設定を行っている。また、グループ分けに際しては、性格・特性・対人関係の傾向等を考慮し、子どもが安心して参加できる環境を整えている。 これにより、スモールステップでの成長を促し、集団活動における適応力向上を図ることを目的として支援内容を工夫している。	職員研修の充実を図り、支援に必要な知識・技術の向上に努めている。 研修で得た内容を日々の支援に反映させることで、利用者一人ひとりのニーズに即した支援方法を検討し、より適切な支援の提供につなげている。 今後も、職員の専門性向上を継続的に進め、支援の質の向上を目指して取り組んでいく。
3	学びたいという意欲をもつ利用者に対しては、学習支援にも重点的に取り組んでいる。 学習活動を通して「できた」という達成感を得られるよう支援を行い、その成功体験を積み重ねることで、学ぶことや新しい知識を得ることへの意欲の向上を図っている。	学習支援においては、成果のみに焦点を当てるのではなく、個々の発達段階や理解度に応じた段階的な課題設定を行い、スモールステップで取り組める環境を整えている。 小さな達成を積み重ねることで成功体験を得られるよう支援し、その経験が自己肯定感の向上につながるよう、支援内容の工夫および調整を継続している。	利用者の状態や日々の様子に応じた適切な支援方法を検討するため、保護者および学校と定期的に連絡・情報共有を行っている。 共有された情報を踏まえ、利用者に過度な負担が生じないよう支援内容を調整し、必要に応じて支援方法の改善を図っている。 これにより、利用者が安定して活動に取り組める体制の構築を目指している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラムに大きな変化が少なく、内容が固定化している状況が見られる。	現行の支援プログラムについては利用者や保護者からの満足度が高かったため、改善や変更を検討する際に慎重になり過ぎる傾向が見られ、結果としてプログラムの更新が遅れる要因となっていた。	職員研修等により新たに得た活動内容について、利用者一人ひとりの発達状況や支援目標に照らし合わせ、活動のねらいを明確化した上で導入の可否を検討している。 活動を取り入れる際には、支援効果や安全性、利用者の負担等を総合的に判断し、適切な形で実施できるよう支援方法の調整を行っている。
2	課外活動の機会が少なく、活動内容が限定されているため、利用者が多様な経験を積む機会が十分に確保できていない状況が見られる。	利用者の年齢層や特性が幅広いため、外出先の選定において、安全性・興味関心・活動の難易度等を総合的に考慮する必要がある、全員に適した場所を設定することが難しい状況が見られる。	社会性を育むことを目的として、課外活動を計画的に取り入れていく。 課外活動の実施にあたっては、利用者の希望や興味関心を反映し、それぞれにとってプラスとなる経験につながるよう配慮している。 また、安全に実施できるよう、想定されるリスクや必要な支援体制を事前に検討し、段階的に取り組めるよう近隣地域での活動から実施していく。
3	地域社会との交流が限定的であり、利用者が地域の人々や環境と関わる機会が十分に確保されていないことが課題となっている。	コミュニケーションが苦手な利用者が多いため、個々への配慮が多岐にわたる、対応が難しい場面が見られた。また、気持ちがあ定しにくい利用者もいることから、活動中の関わり方や環境調整において、より丁寧な支援が求められる状況であった。	地域社会との交流機会を増やすことを目的として、地域のイベントや行事への参加を視野に入れている。 そのため、今後は地域情報の収集を積極的に行い、利用者にとって適切かつ安全に参加できる活動を選定し、交流の場を広げていく方針である。